

未来のために幸せの種を蒔く ポジティブお婆ちゃん！



く り ひ ら ふ じ え
久留飛 富士恵さん（81歳）
み つ ぎ ち ょ う
広島県尾道市御調町在住

『なんでも楽しくくやらにゃあ続かんので、
ほんでお金をもうけにゃあ。』

自分がやって楽しいことを人にも教えてあげ
るんよ。

それで幸せの種を蒔くの。

良い種を蒔けば幸せの花が咲くけえね。

楽しいよ、ほんまに楽しい。

困った時は、大勢の人が助けてくれる。

ええ所で、誰かが助けて知恵を貸してくれる。

なにもかもラッキーじゃ。』

この言葉通り、久留飛さんは、お話しを聴い
ている間中、本当に楽しそうだった。

また、関わったすべての人に対して、心から
の感謝の気持ち分かる話し方をされる。

さて、どんな楽しい人生なんでしょうかと

子ども頃（昭和8年〇歳〜）

神石の生まれなんよ。（現在の広島県神石郡）
戦時中じゃけえ、勉強なんかせずの、家の手
伝いばかりしよつて。ほいでもまあ楽しかつ

たよ。親戚が多かったけえ盆と正月によつて集
まるんよ。大阪のほうからの、皆、※えっと（※
たくさん）土産をもって子どもを連れて泊まり
に来るけえ、わあわあ楽しかつたよ。母は大変
だったと思うけど。

物が無い時でも父は商売しよつたけえ、わた
しは不自由なこともなうて。戦争が終わった
ときは小学校6年生じゃったよ。

兄と姉の母は産後の肥立ちが悪く、私が産ま
れる前に亡くなった。

後入りに私の母がきて、私を産んだ。母は継
子をないがしろにしたらいけんゆつて、二人と
もちゃんと大学へ行かしてからのう。

それで貧乏になつたんだらう、私も大学くら
いは行きたかつたけど、高校3年生の時に母
が子宮がんになつたけえ。2年ぐらい病院を
転々として患うて亡くなった。

結婚、泣いた10年（昭和28年20歳〜）

広島の姉のところへ編み物を習いに広島に
行きよつて、半年ほどしたら見合いをしたんよ。
見合いの相手はすごい賢い人で、私は田舎育ち
で何にも知らん。デートに出たんじゃけど、星
の話やらなんや話が難しゆつて話があわんけ
え、まあ恐ろしい。町には嫁には行かん田舎が
ええ思ひだして。それで田舎へ帰つてきて、そ
したら縁談の話があらだして。

兄嫁が、みんなが町へ嫁に行つたら跡を取る
もんが困るけえ、あんたは田舎のお金もちのと
ころへ行つてくれゆつての。父は福山の町へえ
え縁がある言いようたんじゃが、私は兄嫁の言
うことを聞いたほうがええ思つて、ここ（御調
町）へ来たんよ。バクロウ（※「博労」牛を飼
つて売ること）いうものは、手を叩いたらお金
になる言つたけ23歳で来たんよ。

そしたら、来たらいじめられて泣かされて。
なんべんか、※ほぼろを売つたんよ。（※ほぼ
ろを売る＝実家へ帰ること）

10年間泣かされたんじゃけえ。したこともない、牛を飼ったこともないのに。なんにもしてくれんでええ、言つてゆつてゆつて来たのに、大騙しを食らわされた。

畑に出ても牛に食べさす草を負つて帰らにゃあいけん。普通じゃつたら草を刈つたら畑に置いて帰るのに。

昔はお金くれんのんじゃけえ、なんぼ働いても。10年泣き泣き三人の子育てをしたんよ。実家へ行って、泣き泣き兄嫁に難儀を言つたんよ、母がおらんけえ。そしたら、機嫌とつて着物買つてくれたり、小遣いくれたりしてくれたけえ。

兄は、校長先生になつとつて、お前らはかわいそつに、むしろは学校行かしてもうととるけえ、お金もつけさせてもうととるけえ。帰った時はゆつくりせえよ、ゆつてくれて。いじめられようても、あなたはお義母さんよりしゃんとしとるんじゃけえ、辛抱しようたらおまえの時代がくるけえ、必ず良いことがあるけえゆつて二人が励ましてくれたけえ、今があると

二人がかわいがつてくれたけえ、今があると
思つよ。

母親が、兄と兄嫁を大事にしとつたけえ、そうやって母親が幸せの種を蒔いてくれとつたけえ、今があると思つ。とにかくい種を蒔けばいい花が咲く。

人生を変えた運命のミゼット

(昭和36年28歳)

主人がブローラーを飼つたけえ、自動車があるほつがえかろう、免許取り行け言つて私の兄が進めてくれて、主人が免許取りにいつて昭和36年にミゼットを買つたんよ。

それから牛を運ぶのは大きいトラックがいるから大きなトラックを買つた。

秋になったらむしろでモミを干すのにミゼットが邪魔になつて。主人も留守に車を動かさう思つて、とんでも動かん、エンジンかけてみちやれ思つてかけたら、ブルツとかかつて、ま

あ恐ろしや恐ろしやで。

その頃婦人会ゆうたら

※市村(※当時の中心の村)

へ出にゃいけんかったけえ、

運送会社の近所の人が、うち

の女房を一緒に行かすけえ

一緒に免許をとりに行つてく

れ言つて、うちに言いに

来ちゃつたんよ。

うちのおじいさんらに、免許取りに行かしてくれ言つて頼んだら、おみやあにやる銭は※なあ(ない)言われて。

それで私の実家にわけを言つて、父親にお金をもううて。あの時27,000円じゃたんよ、免許取りに行くのこの。松永から朝二人を迎えに来て、風を送つて来てくれようちやつた。

まあ、あんな楽しいことはなかつたよ。ええクラウンに乗つての。

免許は一発で取つたんよ二人で一月で。当時は路上運転もない、まだ始めじゃけえの。普通車とつたんは私らがこの辺じゃあ女の人で一番で。

商売の始まり (昭和36年28歳)

免許とつても乗る機会がなあ(無い)、なんか二人で商売しよう言つて。8月に免許とつたけえ、その頃アイスペット言つんがあつたんよ。(氷刷り機、かき氷を作る機械。)

- 1,900円じゃつたかの。

風呂敷に包んで紺のモンペを履いて白い工
ブロンで、それがよそいきの服装で。

家の食べる支度をしといて、洗濯をして売り
に行くんよ。こころでも売つたが畑(地名、
隣町)の方まで売りに行くんよ、知つてる人が
おらんけえ、恥ずかしゆうなあけえ。

売れたら1つ3000円のリベートがあるん
よ、それが嬉しゆつて。売り上げは半分分けを
してね。人気があつて、よう売れようたんよ。



一か月売ったけど9月の終わりになったら、もう氷刷りはいらんけ、売れんようになった。



今度どうするか言ようたら、今度はうちへ、化粧品セールスをせんか、いう人が来てくれちゃったんよ。

そんなものは、ようせん、化粧もしたことがなあのに。そしたら何人か呼んで人を集めてくれりゃあ、美容師が来てきれいに化粧してくれる、欲しけりゃ買ってくれるけえ、そのリバートをあげるからホームパーティーをして、人を集めてと。

集めてみりゃあ、化粧してもろうて、きれいになるけえ、みんな欲しくなって買うんよ。自分でも売るために勉強したい言うたら、神戸の三木に化粧品のゼミに行かんかゆうてじゃけ、それに行かしてもろうて。

まだそれがえかったゆうたら!

神戸に一週間家を空けて行くんじゃけえ。家の者には反対されんかったよ、お金くれえ言うんじやないんじゃけ。そりゃ、ほほろを売ってることと思やあ、主人は何にも言やせんんよ。

それが私の商売のはじまりじゃったんよ。自動車に乗ったけえ人生が変わって今があるんよ。

交通事故してもええとやばっかい

化粧品はよう売れたよ。化粧品は自分が売ろう思わんの、自分が嬉しかったけえ伝えるの。新しいのがでたら、こうなもんが出たよ、これ見てみ、言ようんうちに皆見りゃ欲しゅうなる

け。

ちょうど時代もよかったんよ、高度経済成長で女性も働きにできるようになったけえの。女性もお金を儲けるけえ、それに、化粧して綺麗にして行きたいけえ、化粧品がよう売れたんよ。おじいさんが商売するより儲けようたよ。牛は時代がかわって機械化で売れんようになったけえの。

ある日ルンロンで帰りようたら、交通事故したんよ。家の近くまで戻ったんよ、雨の降る日で。

この交通事故がね、えかったんよ。正面衝突はしたんじゃけど。どっちも※えっと(たくさん)ケガはせんかったんよ。相手は男の人のくせにびっくりして気を失ったようになったけえ。私が警察へ言ったりの事故処理をして。相手を主人が病院へ連れて行って相手は一晚入院したんじゃけど。

私は警察で話をしようて、あんたはどうもなйнか、聞かれて。そう言やあ足が痛いかのういうて、見たら足が黒くなって血が出ようたんよ。夜じゃけレントゲンも撮られんし、わからんけどこりゃ即入院じゃゆうて。検査したら折れてもどうもなってなかつたんじゃけど。

それで入院したのが、またえかったんよ。足は折れちゃおらんし、楽しかったんよ。病院でも友達を増やす、化粧品セールスもできだし、ええことばっかりじゃった。

道に迷って仕事をGET!

(昭和47年39歳)

事故したんじゃけえ、あんまり出歩く仕事はいけん言われて。それでもすることがないけえ、一か月入院して退院してから、神辺(現在の福山市)の友達のところへ化粧品販売のつもりで遊びに行きようたら、奥のほうじゃけえ道に迷うて。

またこれがえかったんよ。

道を聞きに行った家が、偶然叔母の家でお互いにびっくりして。

叔母はズボンの縫製工場を経営しようて。見舞いにも来てくれとっただけえ、叔母が歩いてけがをするより、うちの仕事をしてくれんか、いうて。夫も叔母の会社に勤める事になつて。

ミシン10台購入して10人縫うてくれる人を集めて。そんで縫製を始めた。叔母の会社からミシンの使い方やらは教えにきてくれたけえ。

世間話から牛乳屋さん開始

(昭和50年42歳)

縫製で働いてくれようる人が、昼休みに農協で買い物しようる時に聞いたんじゃが言うて。ニコニコ牛乳の人が、急に倒れて困つとてじや、誰かやってくれんかの言うて、探しようてじや。

車はあるしやってみようか、ゆうたらその日の夜に会社の人が説明に来ちゃつて。よう儲かるゆうけ、やることにして、次の日には牛乳をもってきた。それで牛乳配達を始めたんよ。これがよう儲かってね。

ミシンはやりながらじゃけど、オイルショックのころでちょうど縫製もいけんなりようたから、良かった。

牛乳配達は楽しかったよ。よう儲かったし。4時に起きて8時までに決まった家に配達して、9時から個人のお宅や会社へ配りに行くんよ。いろんな人に会つけえね、話をするんが楽しかった。

一番楽しかったんは、お昼の15分の高校生とのやりとりがほんまに楽しかったねえ。パン屋の隣でね、コーヒー牛乳がよう売れて、儲けが半分あってえかったんよ。ちよろまかそうとして、構うて来たりしてね、面白かったんよ。

主人が胃潰瘍で吐いて、入院した。それで牛乳配達は辞めよう思いようたら、息子は大学一年生じゃったけど夏休みに※てこうする(手伝う)けえゆうて手伝うてくれて、これから休学してやる言うてくれた。牛乳の会社も手伝いを

よこすけえ続けてくれ、ゆうてね。夫もわしが元気になったらするけえ言うてくれたんじゃけど。

それでも、えっと考えて教育が一番、息子が休学してまではいけん、思うて辞める事に決めたんよ。

そしたら一週間もせんうちにもやる、言う人が見つかってね。その人に車もお客さんも全部ゆずったんよ。その人は、今もしようてじやけえね。

牛乳配達はえかったんよ、よう儲かるし人と話しての、仲良しが増えて。息子の就職も、会社が募集しとるの教えてくれて、就職試験受けることができた。

息子は、地元には帰らんようたんじゃけど、大学の先輩に話をしたら、どうせ跡取りなんじやけえ、仕事があるんなら今戻ったほうがええ言われて、帰ってきたんよ。

柿の苗50本、話を聞いて即実行

(平成元年56歳)

それから、役場の村おこしの講演会を聞きに行ったときに、講師の先生から、ここは柿の里で有名だから、柿で地域おこしをしたら間違いない言う話を聞いて。(有名なのは串ガキ、飾り用で食用ではないもの)それが11月

じやったけ、ちょうど12月がポーンスじや。

講演会の次の日に柿の木を50本農協で注文したんよ。

減反政策の頃じゃけえ、田んぼが空いとるけえね。

夫に50本注文した言うたら、ばかたれが！8年もかかるもんをわしやあ植えやあせんど、言われて。

ほんでも注文したんじゃけえね。



柿畑

苗が届く日、私は居なくてたまたま主人は家におったんよ。

夫が、今日届いたけえ植えといたと言つて。

この、夫が自分で植えたんが良かったんじやろう、自分で植えただけえ愛着が出てね、よう世話あ焼いてくれて、やるようになつたんよ。

それに8年じゃなしに4年で実がなるようになってね、嬉しかったよ。

そうしようたら、役場で普及員さんと知り合いになって。うちの柿は早生で次期が早いんじやがその普及員さんが、ええのを教えちやろうゆつて「つなかけ」という奥手の品種が、大きくておいしいと教えてくれたんよ。それじゃあ一〇〇本お願いしますゆつて、植えた。三原市の深のつなかけさん、ゆう熱心な人が開発したんじやと。あとでわかったけど、うちに最初に植えたのは岡山の「四谷(よたに)」。

渋抜きの方とかを三原に習いに行ったんよ。大きなおいしいのが出来て、いっぱい作つて親戚中に送つたんよ。先祖の畑でできたんじやから。

あんぼ柿の出会いから干し柿に

(平成8年60歳)

柿を送つた福島の兄の長男の嫁さんから、叔母さん美味しかったよ、お礼にうちの母が作ったの食べてみてと「あんぼ柿」言う干し柿を送つてきてくれたんよ。



福島県梁川産あんぼ柿

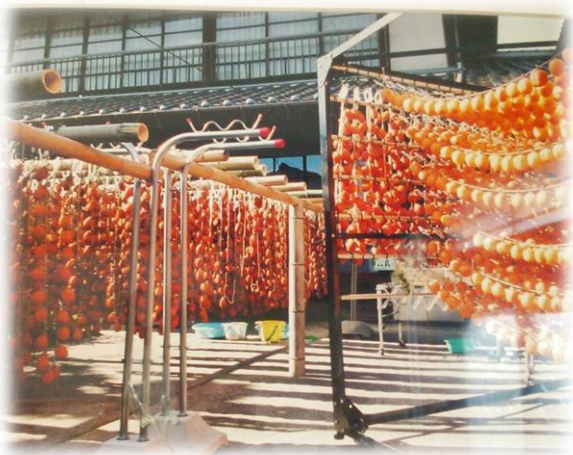
まあほんま嬉しかったんよ。すぐ電話してお礼をゆつて、私も作つてみたい、言つたんよ。そしたら、今度は直接兄に電話して、梁川農協じやゆつて調べてくれて、いつでも教えちやる言つたけえ、すぐ飛行機の子ケットとつて行つたんよ。

兄が車で空港まで迎えに来てくれて、どっかほんまに作りようる所を見てみたい言つたら、ドライブしようたらあるじやろついで。そし

たら、柿の木がいっぱいあるところに女の人がおつて、聞いたら元祖がここじやゆつて、案内してくれて。残念留守じや、ようるところへ帰つてきちゃつて。広島から来たゆつたら、よう来たゆつて全部見せてくれた。

そこで干し柿に必要なものを全部そろえて送つてもろつて、それから本格的に干し柿を始めたんよ。乾燥場も建てて・・・500万くらいかったかのう、ボイラーなんか高かったよ。福島の柿みたいに、一個ずつパックにして、箱もおんなじようにしての。

しばらくして遠赤外線にしたら、カビも来ないしええんよ、ゆつて聞いて50万で道具を。それから今度は、前に行った時は硫黄で燻蒸するいうのを習つたんじやけど、今度はボイラーで熱湯消毒するのをやりようてじや、いうて聞いての。それも福島まで飛行機で日帰りをして習いに行ったんよ、主人と二人で。柿をしようる頃じゃえ忙しかったんよ。仙台から車で2時間くらいかかったかの。すぐ習いに行くんよ、飛行機の子ケットはネットで注文できるけえの。息子がしてくれるんよ。



自宅前での柿干し

ネット販売パソコン教室

(平成13年65歳)

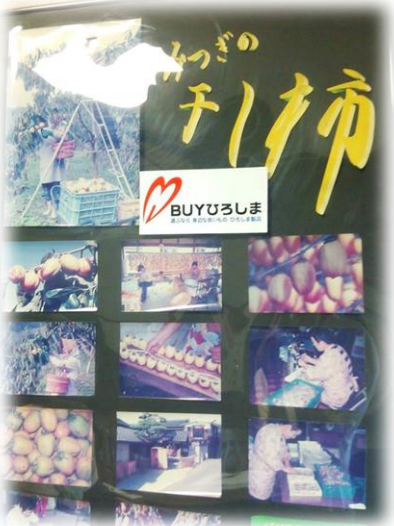
平成9年ごろから、パソコンしようるよ。息子がパソコンで納品書作るのを教えてくれたんよ。それから平成13年に役場(当時の御調

町役場)がパソコン教室したけえ習いに行つての。今もグループ作つてしようよ。カレンダー作つたりしようよ。

ネット販売もしようよ、それは息子がしようよ。私は電話でしようよ、人から人へ話をしての。完売したんよ、在庫なしでの、柿はよう儲かったんよ、柿様さまじゃ。いっぱい人が買いに来てくれるんよ。

今は、道の駅があるけど、その頃はなかったけえね。一番最初は、柿作つて売りようよ家は、他にないけえ、農協じゃなしに福祉展とかに商工会の人に頼んで売ってもらつた。売れやせんよ、自分で売らにやあ。

それから今度は農協祭が尾道であるときに、売りに行つたんよ。そしたら息子がパネルをこしらえてくれたんよ。



息子さん作成パネル

パネルを使ってみて、私が作つた柿よ、これ見て食べてみてゆつて売りよつたんよ。そして新聞社の新井さんという人が来て、こりゃあ面白いの、いつて新聞に記事をだしてくれたんよ。ただで宣伝してくれたんよ。広島フードフェスティバルに行つたりの。

それで、ようけ(たくさん)人が来てくれるようになったんよ、全国からの。

酵母が飛んできて柿酢発見

(平成14年66歳)

そうして、最初は※すくし柿(熟した柿)を人にあげようたんじゃけど。

もったいなあ何かならんか思いようて、ふと思ひ出しての。

そういやあ、昔実家の母がすくし柿を樽へ入れて、なま酢に使うようたな思つて、かめへ入れてみたんよ。

ほんで忘れとつて春になって、なんじゃったかのお思つて、開けてなめてみたら、ええ酢が出来とつて。なんも入れずに柿だけカメにいれて置いとつただけ。

ほんま美味しい酢が出来た。開けてみたら上の方がきれいに澄んどつてふつとなめたら酸い美味しい酢じゃつたけ。

そのままずっと秋まで置いとつて、秋に柿を買いにきたお客さんに、こんな美味しい酢ができたんよ、いつたら、たまたま広大(広島大学)の先生じゃつた人で。こりゃいけると、酸度が25度じゃ、こんなええ酢は広大に持つて行って研究してもろうたら、言つてくれて。知り合いがおらん、言つたら後輩の教授に電話してくれて。

教授は、これは研究したらお金もかかると、このままもつて帰つて冷蔵庫へ入れといて、来年樽へ少しづつ入れたらええ酢ができますよ、

そうしよつたら酵母がお宅へ住みつくけえ、どうもせんでもええ酢が出来るようになりますよ、言つてくれちゃつた。紹介してくれた先生も、こりゃあラッキーですよ、たまたまお宅に酵母が飛んで来とつたんじゃ、言つて。

ほんま、ラッキーなことばかりなんよ。

おもしろえおっさん現る

(平成15年67歳)

ほんなら、こりゃあ売るようになせにやいけん思ひようて、また、農協祭りに柿を売りにいつたんよ。そこで柿を売らようたら、お客さんでおもしろえおっさんが、私を構ひに来るんよ。



ねえさん、どこから来たんかとか、こぎゃあな柿はどこへでもあらあ言うて、食べてみて買いませすこのう。

そついうおもしれえおっさんじゃって、私はまだええものを作りようるんよ、酢を作りよんじゃけど、だれか瓶へ詰めるようなことをする人がおらんかのう、言ったら。

それがたまたま尾道造酢の人じゃって、すぐ工場長さんを連れてきて話をして。

あくる日すく見に来てくれちゃって、うちでさしてもらいますよゆって、瓶に詰めるところから全部の。

それから箱を作ったりラベルのデザインもどうしたらええか、考えよって。

そつしよったら女性会でバスに乗った時に、前の席の人と、名刺交換したら、その場でええ似顔絵を描いてくれちゃって。

ほんで、私は柿酢を作りよって、ラベルをデザインする人を探しよるんよ、来て書いてくれん？いうたら、ええよ遊びに行きますよ、ゆうて来てくれちゃって。

それが東京から来た人じゃって。主人がイメージを伝えたらそれに合うようなええ絵を描いてくれちゃって。似顔絵もの。箱を作るところも知っとるいうて、紹介してくれて。

今もって柿酢がよう売れるんよ。

柿酢の宣伝は、道の駅で中国新聞の人がたまたま買ってくれちゃって、おいしかったケえ、朝目覚めもすつきりでえかったから新聞に出してもええかいうて朝電話があって。



くるび農園の柿酢

新聞に載ったら問い合わせがよう来るようになって売れだしたんよ。コンスタントによう売れるんよ。

ハツラツ元氣いう雑誌も記事をだしてくれて。きっかけは私が現代農業に投稿したのをみた、ゆうて東京から取材にの。

2000本完売するんじゃけえ、うれしいよ。捨てるもんで売るんじゃけえ儲かるんよ。皮も入れとるけえええんじやと。同じ柿酢でもお宅のはよう売れるんよいうてくれちゃった。

大勢の人の世話になって、これだけの商品が出来るようになって。私も考えただとそつしてみんなが助けてくれて。これだけの立派な商品が出来るようになって、喜んでもらえて。

村おじの先生にお礼

ええ柿ができるようになって、10年目に村お

こしの話をきいたお礼に柿を送ったんよ日本ふるさと塾、花咲か爺ゆうて、すごい先生なんよ。

この先生がすごい喜んでくれるの、これが本当の

花咲か爺言うもんじや、いうて。400人から講演聴いても話した事をすぐ実践してくれた人は一人じや、いうて褒めてくれちゃって。講演の話の種で必ず私の話が出るんじやそつな。柿が美味しかったゆうよりも、実行してくれたんが嬉しかったゆうてな。

ヨモギ栽培（平成20年72歳）

ヨモギは作って持っていいたら現金くれる。こんな嬉しいことはないよ、植えて作ったものが現金になるんじやけ。

前に柿酢で広大に連れってってくれた人が来てね、月に300キロもヨモギがいる団子屋さん、輸入ものじゃけえ地産地消でやりたいけえ誰か作ってくれんか探しよる、言いつて。



お礼をきっかけに先生の講演会にも参加

ちようど空いた田んぼがあるけえうちが作
ってあきょうゆうて。300キロもいるん
ならようけ植えにゃ。聞いて15日、次の日に
植えたんよ。道端のヨモギを引いて、田んぼに
植えて。3月に植えての月にもうとれたよ。
どうしたんか、今年はできなんだんよ。連作
がいけんらしい。

ヨモギはもうやめるんよ、今日、次の人にあ
げたけえね。

夫、やぶうくで復活！

(平成23年75歳)

東北の震災の前日に、平成23年3月10日に
風に戻ったら、主人がすわっとって、おかあさ
ん、わしゃあもう何にも出来んようになった、ゆ
うてその日から酒もたばこも、ご飯もなんも食
べられんようになって、その日から「タツ」な。
それきりどんどん痩せていった。

半年間、あちこち病院に連れていっても原因
がわからん、どんどん痩せていってから病名も
ないけん入院もさせられん。

もう死んでもええわ、言ったんじゃが、ひょ
っと、これでお父さんがなくなったら私一人じ
やあさみしいし、なんとかせにゃいけん思っ
て。そうしよったら、またええ人に出会って。

甘酒やどぶろくを作る人に出会ったんよ。そ
れを作って飲ませでしたら、食べるようになって
ぐんぐん元気になったんよ。



元気になったご主人 とてもいい笑顔

甘酒の出会いが、ヨモギと一緒に作りようる
人の妹の家に、ヨモギ出荷後に、一緒にお邪魔
したら、甘酒を出してくれて。まあ、このや美
味しいな言っただけ、うちで麴を作りよう
るんよ、発酵食品をなあいつて。それから何回
ももらいに行きようたら、心安くなっね。作
り方や
道具を教えてもろうたんよ。甘酒もええ
のが出来るんよ、すっごい美味しいのが。
ほんま、いい出会いがあるんよ、必要な時に
必要な出会いが。

幸せの種 (現在)

いじめられたけど、亡くなる前頃から、姑さ
んにはええ言葉をもちろつたと思っ。ええ言葉が
いっぱいあるんよ。

箱を作る仕事をよう見つけてくれた言って。
明治生まれのお嬢さん(姑さんのこと)を優
良従業員として、タダで使わしてもらったけ
え。お給料あげてもええんじゃけど、よう使わ
んけえ。

おばあさんには、それより幸せの種を蒔こつ
言って100万円のお給料をあげる代わりに、
10人の孫に10万円づつの包みをこえて、お
ばあさんから孫に手渡してもろうたんよ。

そうすりゃあ、おばあさんが孫にむけて幸せ
の種を蒔いたことになるけえ。皆喜んでくれて
なあ、先でええ花が咲くよ。

こないだ、空き家を買ったんよ。皆が集まっ
て、すすめの学校みたいな、楽しいことができ
りゃあ思って。

家でしたら、どうしても気兼ねをしてじゃけ
えね。
ほろな空き家なら、なんも気兼ねをすること
はいりゃあせんけえ。迷惑掛けることはないけ
え。

みんなが集まれる、すすめの学校のような場
所が作りたいんよ、言ったら、お婆さんがこの
絵をいも版で書いてくれちゃったんよ。

未来へつなぐ

インタビューした日は、約束の時間に何うと畑に連れて行って留守で、畑に行ってみた。御調地域を楽しくおもしろくしたいとがんばってる若者「ヨモギの栽培を託していた。話していたら、やってみようという事になった。ええ、掘りに来たんよ。」とのこと。そして冒頭の言葉を伝えていた。



ヨモギの栽培方法と、
なんでも楽しくする話をする久留飛さん

「なんでも楽しくくやらにやあ、続かんので。ほんでお金をもうけにやあ。」

インタビュー終わってから、聞き返して言葉の意味の重さもあらためて感じた。そして、やっぱり最初から即実行の人だなあ、と改めて思った。

「若い人ががんばってくれるんは、うちらあなんほでも応援するけえ。」

ここらは、ええとこが、いっぱいあるんじやけえ。なんでもやってみりやええんよ、なんほでも教えてあげるけえ。」

久留飛さんの楽しいこと、面白いことはまだまだ尽きない。



お客さんが描いてくれたすずめの学校（芋版）



お客さんが描いてくれた似顔絵

東京財団週末学校

広島県尾道市

倉田

麻紀